

事業評価の報告 (令和2年度)

単位：千円

基本目標	施策の大綱	施策と評価対象事業の概要		事業費 (職員人件費含)	
		自己評価並びに有識者意見		評価	
歴史と文化を継承し創造する心豊かな人を育むむらづくり	第5章 第1節	① 巡回子ども保育・教育相談事業			11,937
	子ども支援の充実	自己評価	各保育園・学校の子どもをより深く参観することができ、保育士・教員・保護者への支援の充実が図れた。各学期毎、教育相談員連絡会を開催し、子ども一人ひとりの支援策を検討する機会を設け、子どもの成長に沿った支援の充実が図れた。		B
		今後の方向	各園・各校とも参観して欲しい子が増加。巡回子ども保育・教育相談の時間を有効に活用して、子どもの状態や成長等に沿いながら支援方法（保育士や教員等の対応の仕方）や体制の充実を図りたい。		
		意見	よく村で支援していると思います、保育士や教員の対応のレベルアップに力を入れてください。		
	第2節	① 保育園加配保育士配置事業			6,351
	保育環境・幼児教育の充実	自己評価	温かな支援を要する園児に対して、保育園での集団保育を可能とするための加配保育士を配置し、保育を実施できた。成長する姿から加配保育士の配置について見直し、1対1の加配が外れたケースがある。早くからの支援は必要である。		B
		今後の方向	今後も園児および保護者の保育ニーズを精査するとともに、対応できる人員配置等体制整備を進めていく必要がある。		
		意見	充実した保育であるため、必要に応じた人員配置・加配等大切です。		
		② 保育園・小中学校等施設修繕事業			
	自己評価	自己評価	緊急度が高く、優先順位を付ける中で、計画的な施設修繕・改善を実施したが、施設老朽化に伴い突発的な修繕も多く発生するため、緊急性・必要性を要する案件について、早急な修繕対応を実施した。また新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使い感染症対策の修繕を行った。		B
		今後の方向	毎年、計画的かつ迅速な施設修繕等を行い、保育園・学校の安全性の向上やより良い保育・学習環境づくりを図る必要がある。大規模な修繕が必要な場合は、国の補助金等の活用を検討。		
		意見	施設修繕事業よくやっていますね。本年は特にコロナウイルス対策で大変だったと思います。		
第3節	① 小中学校教科担当・図書館司書配置事業			844	
学校環境・学校教育の充実	自己評価	自己評価	・教科担当教員の配置を行い、専門的な教科学習の充実が図られた。 ・システムでの管理により、図書館の適切な管理及び利便性の向上が図れ、本の貸し出しや読書推進に貢献できた。		B
		今後の方向	・小規模校により、県費職員の配置数が限られ、専門教科担当の不足が今後も懸念されるため村費補充は必要になってくる。 ・児童生徒が興味を持つような図書を整備し本に親しむ環境を整備していく。		
		意見	小規模なので、中学校は全教科県費というわけにはいかず、村費での雇用、大変ですが頑張ってください。		
	② 私学助成事業			760	
自己評価	自己評価	私立高等学校へ在籍している生徒の確認等、適切に実施でき、通学支援等の一助として有効な施策と考える。		B	
	今後の方向	継続実施する。			
	意見	私学助成継続をお願いします。			

③ 子ども支援専門員等配置事業		2,649	
自己評価	平成23年度から試行的に開始した「子ども支援プロジェクト」の実施に必要な子ども支援総合専門員等を配置したことで、0歳～18歳までの一貫した支援体制の構築に向けた基礎が築け、関係機関の連携強化が図れた。	B	
今後の方向	長期的な視点にたち、育ちに対する一貫した支援体制の更なる充実・強化に向け、継続的な配置が必要である。		
意見	いじめ・不登校への対策特に重要です。関係する児童生徒が増えていると思われるので、対策の充実をお願いします。		
④ 小中学校特別支援教育支援員配置事業		14,769	
自己評価	児童生徒一人ひとりの育ちに対する支援の充実を図るため、通常学級に在籍する温かな配慮を要する児童生徒への支援は、支援員の配置が不可欠であり、有効な教育活動と考える。	B	
今後の方向	特別な支援を要する児童生徒の数的状況に応じ、各学校へ支援員の配置を行う。		
意見	特別支援を必要とする児童生徒が増えていると思うので支援教員を必要に応じて加配願います。		
⑤ 要保護・準要保護就学援助事業		1,484	
自己評価	国の制度に基づいた生活困難な世帯への補助制度であり、その認定については補助提要に基づく判断をおこなっているが、生活の困難さが世帯によって異なるため認定のための判断が難しい世帯が増加傾向にある。	B	
今後の方向	今後も生活困難な世帯への就学補助を行い、児童生徒が問題なく学校生活が送れるよう継続実施する。		
意見	就学補助継続をお願い致します。		
⑥ 小中学校米飯給食補助事業		200	
自己評価	学校給食へ安心・安全な筑北産米を提供することができ、他の地域食材も含め、産地地消の促進及び食育の推進に資することができた。	B	
今後の方向	米穀単価の変動に注視しながら、適正な単価設定を行い、また、精米検査の継続実施により、安心・安全な筑北産米の提供を行っていく。また、小学校の統合により、購入店等の調整が必要。		
意見	産地地消大事なことです、筑北米いいですね。		
⑦ 中学校語学指導助手配置事業		6,248	
自己評価	JETプログラム（自治体国際化協会）の外国語指導助手（ALT）が、中学校の英語科指導補助に当たるとともに、保育園や小学校の外国語活動へも参加し、特色ある活動の充実が図られている。また、日本人外国語活動支援員（JTE）との協働による相乗効果が見られたが、1年で代わるのは負担が多い。	B	
今後の方向	保小中と教育委員会との連携による効果的な学習に向けた話し合いを行い、今後も継続実施する。更に、保育園での「英語とともだち」を充実させ、保・小・中の一貫した外国語活動への取組を充実させたい。		
意見	保・小・中の外国語活動筑北村の特色です。いっそうの充実を願います。		
第4節	① 新規文化財認定事業	0	
歴史・文化の継承	自己評価	新規文化財指定なし。	C
	今後の方向	文化財の調査、整理を進めながら指定、保護に努めていく。	
	意見	新規文化財はもうないのでしょか、文化財委員で詳しく確認の必要がありますね。	
	② 村歴史民俗資料館整備事業		0
	自己評価	生涯学習支援ボランティアの協力を得て、資料館の整備が徐々に進行してきているが停滞しているところがあるので、再構築していく必要があると考えている。収蔵庫は建物が老朽化しているため、収蔵物の移動などを行っていく。	C
今後の方向	生涯学習支援ボランティア等を活用し、展示品整備・充実を図りたい。来館者を増やすために村外への情報発信を行う必要がある。		
意見	資料館の整備大変ですがボランティアの方のお力を借りて進めてください。資料館は一度見ると、再度足を運ぶ人が少ないのでイベントなど組んで宣伝なども必要かも、学校などへの呼びかけも必要、どんな授業に役だつか、資料も添えてやってみてはどうか。		

	③ 文化財保護事業	1,000
	自己評価 補助金等を交付し文化財の適正な保護等に努めることができた。 (白山社・大洞権現本殿修繕)	B
	今後の方向 現地調査、地元の要望を整理し必要に応じ、補助金等交付を行い、文化財保護に努める。	
	意見 文化財は村の宝です、保護にいつそう力を入れてください。白山社・大洞権現修理素晴らしいです。	
第5節	① 社会人権教育推進事業	0
人権尊重社会の推進	自己評価 人権意識を高めるため、身近で分かりやすい題材を村広報に掲載し啓発活動した。コロナ禍で住民福祉課と連携して行う講演会及び講習会は中止となった。	B
	今後の方向 人権意識がまだ低いことから引き続き村広報、公民館活動、講演会等のあらゆる場で、身近な人権事例等を意図的に取り込み、自然体で人権尊重の意識を高めるよう啓発していく。	
	意見 人権尊重の意識・啓発充実を願います。ホットスポットなどで、たえず人権意識を高める啓発が必要かと思えます。	
第6節	① 生涯学習事業（各種イベント・講座等開設）	246
生涯学習の推進	自己評価 年間を通じてイベント、講座等を開催し、多くの方に参加をいただいた。村民の学習意欲を満たす事業を行うことができましたが、コロナ禍で計画した講座等を中止、成人式は延期、文化祭は展示のみで、実施した講座等は感染症対策を講じて実施した。	B
	今後の方向 開催地域により参加者数のばらつきもあるが、学級、講座については、村全体で事業を実施した。参加者が偏らないよう、青年、壮年層などの求める学習内容なども設定していきたい。また、評価を行い効率的でより効果がある事業としていく。	
	意見 今年はコロナ流行で、企画したことが縮小したり中止であったりと予定したことができず残念な年でした。	
	② 青少年育成補助事業	658
	自己評価 地域の未来を担う青少年が様々な生活体験や自立した人としての必要な知識を培うため、本補助金を交付することにより、各育成会活動を活性化させることができた。	B
	今後の方向 各分館の正副育成会長による筑北村子ども会育成連絡協議会を開催し、各地域の情報交換を行った。少子化で子どもが少ない地域については、他地区と合同に活動することも考えていく必要がある。	
	意見 県下では育成者中心でなく、子供が主体となり育成者が補助していく活動が主流です。少子化や地理的条件で、中学生や高校生がリーダーとなって活動ができないのが残念です。	
	③ 分館運営・活動補助事業	2,715
	自己評価 交付金の活用方法については活性化につながる内容であれば特に定めはないため、地域の創意工夫により活動を展開することができた分館や、コロナ禍で事業を縮小又は中止した分館が多かった。	B
	今後の方向 引き続き他地域の活動事例も紹介し更なる交付金の有効活用を図るとともに、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が活動できるような仕組みを手掛けることが必要である。	
	意見 今年はコロナの影響で分館の活動が中止になったところが多い、地域活性化には分館の活動が欠かせないので、今後に期待します。	

④ 文化系クラブ育成補助事業		310	
自己評価	各種団体への活動補助事業の成果は、文化祭への展示・発表への参加につながり、各分野の追究や技術を高め、又クラブ員の親睦を図ることができましたが、コロナ禍で思うような活動が出来なかったクラブが多かった。	B	
今後の方向	クラブ員の高齢化が進んでおり、クラブ数が減少傾向にある。学ぶことを継続していきけるよう支援をしていく。また、新規のクラブができるよう支援していく。		
意見	おおいに支援していただき活性化を図ってください。		
⑤ 図書館利用促進整備事業		14,495	
自己評価	図書館システムを更新し、更なる図書館サービスの向上に努めることができた。また、コロナ禍で予定していた一部の事業が中止となった。	B	
今後の方向	利用者のニーズに応えられるよう、図書や雑誌等を充実させていく。利用者が参加したくなるようなイベントをより多く開催していく。学習室等の利用が一人でも増えるよう運営の充実を図っていく。		
意見	いろいろなイベントを組んでいただき活発に活動していますがコロナの影響で人数制限や中止等があり残念でした。		
⑥ 公民館報発行事業		537	
自己評価	村民全体への情報媒体として情報部員の取材により地域の情報を細かくタイムリーに拾うことができた。	B	
今後の方向	誰もが読みやすく親しみのある紙面とするため他の自治体の館報の研究や、研修会へ積極的に参加していきたい。情報発信が後手後手にならないよう、事業計画や進捗状況を的確に把握していく。		
意見	読みやすく、多方面にわたり情報を集めているので読むのが楽しみです。		
第7節	① 分館対抗事業（野球大会他）	0	
スポーツ活動の推進	自己評価	分館対抗大会（野球・ソフトボール・ソフトバレーボール大会）はコロナ禍で中止となった。	C
	今後の方向	各地域で参加できる分館が年々減少傾向であるため、3地域合同で実施することも視野に検討していく。	
	意見	合併したので、地域別々な活動ばかりでなく三地域合同の活動があってもよい、やり方は工夫次第でどうにでもなると思う。	
	② スポーツイベント・教室等事業（ストレッチ教室・健康づくり教室他）		28
	自己評価	予定していたスポーツフェスティバル、各種教室等はコロナ禍の影響で中止となった。グラウンドゴルフ大会、ゴルフ大会、ティーボール講習会は感染症対策を講じて実施した。	C
	今後の方向	令和元年度のスポーツフェスティバルで運営・周知方法で反省事項等があったため、多くの村民に参加してもらえるよう検討していく。	
意見	スポーツフェスティバル多くの村民が参加し盛んになるよう努力してください。		
③ 体育協会補助事業		626	
自己評価	ジュニアスポーツ団体の育成に力を入れ始めたことで、各部で子ども達の指導を行うようになったが、まだまだ事務局から依頼で動いている部分もあるため、個々の団体が自主的に動くことができるような体制を整備する必要がある。	B	
今後の方向	体育協会と総合型スポーツクラブが連携を図ることで、更なるスポーツ振興が見込める。相互の団体が単独で活動するのではなく、如何に活動を理解する中で歩み寄り、協力体制を整えるか今後は重要となる。		
意見	体育協会と総合型スポーツクラブとの連携今のこと見えてこない。協力体制が大事だと思います。どうやればいいのか研究が必要ですね。		

④ 少年・ナイタースポーツ団体補助事業		459
自己評価	補助金の有効的活用により各団体等でスポーツ振興に寄与することができた。コロナ過でナイタースポーツ団体は活動を中止または縮小して実施した。	B
今後の方向	新型コロナウイルス感染症対策を行い実施していく。少年スポーツ団体では人数が減少しているチームがあるため、少しでも増加傾向にできるよう周知等を行っていく。	
意見	今後の努力に期待致します。	

総合自己評価			教育関係 80点以上
100点満点に換算した点数によりA～Eの5段階の評価を行いました。			
段階	点数	内 容	社会教育 関係は 70点から
A	86以上	優れた取り組みが多い事業で、十分成果が上がっている	
B	71～85	優れた取り組みがある事業で、成果が上がっている	
C	56～70	一定の成果が上がっているものの課題があり、更なる取り組みが必要である	
D	41～55	成果が上がっておらず、改善の余地が多くみられる	
E	40以下	成果がほとんどなく、抜本的な見直しが必要である	